

花 笠 が 出 来 る ま で



頭つけ

横方向に細いスゲをまきつける。
接着剤は使用しない。



笠骨の完成



笠骨づくり

木と竹を組んで作る。



7月の土用の日以降に刈ったスゲを乾燥し、太いもの・細いもの・芯や色味が悪いものに選別。



頭つけ完成



スゲつけ

太いスゲを縦方向に並べ、縫いつける。



縫い込み

縫い込みながら所々でスゲを折り、本数を減らしながら上まで縫い込む。

出来上がり



赤いへりをつけ完成！
この状態で出荷する。

農家民宿宿泊料金

1泊2食体験付き 大人 6,800円～
小学生以下 5,600円～

花笠づくりの材料費が別途必要となる。



花笠づくり体験

なかつがわ農家民宿「庄太郎」、「あえる村」等で、花笠づくりの体験を行っている。花笠を作りたい、冬の中津川を感じてみたいという方は、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。冬はスノーモービル体験等も実施中。





花笠まつりを支える

なかつがわ

花笠の里 中津川



左から伊藤元身さん・高橋冬さん・伊藤よしさん

全国にその名が轟く山形の夏祭りといえば『花笠まつり』。祭りで使われる花笠の多くを飯豊町中津川地区のおばあちゃん達がつけている。

山形県南西部に位置する飯豊町中津川地区は、朝日連峰 飯豊連峰の雄大な山々に囲まれ、地区内を清流置賜白川が流れており、豊かな田园風景が広がるのどかな農村地域である。また、冬期間は2〜3mの雪が積もる県内有数の豪雪地帯でもある。

中津川地区では、昔から農閑期(冬)の仕事として、農作業用の菅笠を作っていたが、昭和38年から花笠を作り、花笠まつりに提供し始めた。現在では、まつりで使用する花笠のおよそ8割を中津川地区で生産している。

地区の各家々で材料となるスゲの栽培から、笠骨作り、縫い込み作業、全工程を手作業で行う。熟練した技術と相当な手間が必要であり、中津川ならではの伝統文化となっている。

現在、花笠づくりを続けているのは15名ほど。「大変だけど手が動くうちはまだまだ笠づくりは辞められないよ。」と笑顔でおばあちゃん達が話してくれた。そんなおばあちゃん達が丹精込めて作った花笠を、夏の花笠まつりに訪れた際には、是非注目して見ていただきたい。